

はじめに



データサイエンス教育研究センター長
竹村 彰通

最近ではマスコミの報道においてもAI・データサイエンスなどの用語が載らない日はないと言ってもよいほど、データサイエンス分野が注目されています。日本初のデータサイエンス学部を開設した滋賀大学の動きについても注目をいただいております。企業や自治体との多くの連携が進んでいます。

滋賀大学では一昨年4月に日本初のデータサイエンス学部を開設し、1期生はこの4月に3年生となりました。いよいよゼミもはじまり、1期生は就職も視野に入れた実践的なPBL演習を進めています。

この4月には、これも日本で初となるデータサイエンス研究科修士課程を開設しました。23人の新しい院生のうち19名は企業からの派遣の院生です。派遣元の業種もさまざまであり、異業種交流やオープンイノベーションの場としてのユニークな修士課程が生まれました。修士課程では、棟梁レベルに達するデータサイエンティストを輩出します。

このような実践的な学部教育や企業ニーズにこたえる大学院教育のためには、産学連携が非常に重要な役割を果たします。社会連携を進めるために3年前の2016年4月に、学部開設に先立ち設立したのがデータサイエンス教育研究センターです。このData Science View, Shiga Universityでは、3年目となる2018年度のデータサイエンス教育研究センターの活動を紹介しております。

データサイエンス教育研究センターは、1) 基盤研究、2) 価値創造プロジェクト研究、3) 教育開発、4) 調査・情報発信、の4つの分野の活動を進めています。特に、企業との共同研究の形で価値創造プロジェクト研究を積極的に進めてきました。共同研究の中から、いくつかの顕著な改善事例も得られています。

データサイエンスの技術的基礎はデータを処理するためのデータエンジニアリング（情報学）及びデータを分析するためのデータアナリシス（統計学）であり、これらの手法を、さまざまな領域の問題に応用して新たな価値を生み出していくこと（価値創造）が必要です。このように、データサイエンスはすぐれて文理融合な分野です。このことは、データサイエンス学部生の構成や4月より開設の修士課程の院生の派遣企業の業種にも反映されています。

今日、データサイエンスは国際競争力の源と考えられており、世界中でデータサイエンティストが求められています。日本ではいままで統計学部や学科が存在しなかったこともあり、この分野の人材不足は深刻です。本学からは、学部生、修士院生とも最初の卒業生が出るのが2年後ですが、すでに多くの採用希望をいただいております。

本センターは社会の期待にこたえるために、今後も多彩な活動を進めていきます。来年の4月には業界を代表するレベルのデータサイエンティストを育成する博士課程の開設を文部科学省に申請中です。これにより学部から博士課程まで、国内最高水準のデータサイエンス教育研究体制が完成します。今後とも本センターの活動に興味を持っていただければ幸いです。